日本建築学会中国支部研究報告集 第38巻
平成27年3月

社会福祉事業団によるデイサービス施設の空間構成と利用形態
－萩市における社会福祉事業団を主体としたデイサービス施設の整備プロセス　その 4－

正会員　○石橋　凪砂**
正会員　三島　幸子*
正会員　大橋　彩織**
正会員　孔　相権***
正会員　中園　眞人****
正会員　山本　幸子*****

デイサービス施設　社会福祉事業団　空間構成
利用形態

1. はじめに

本報では萩市社会福祉事業団（以下：萩市事業団）のデイサービス施設 7 施設の平面図より空間構成の分類を行い、各施設の活動プログラムと活動場面の分析を行い、空間の利用特性を明らかにする。

調査内容は平面図上に利用者及びスタッフの活動場面の記録を行った。活動場面記録調査は、施設 I は平成 26 年 9 月 5 日、施設 F は 9 月 10 日、施設 A は 9 月 11 日、施設 H は 9 月 12 日、施設 E は 9 月 29 日、施設 B は 9 月 30 日、施設 D は 10 月 2 日、3 日終日（午前 9 時から午後 5 時）5 分間隔で利用者及びスタッフの施設内での行動観察を行い、行為の内容と場面を平面図に記録するとともに、写真撮影を行った。

2. 施設の空間構成

施設の空間構成と使われ方の関係を整理した結果、図 1 に示す 3 つのタイプに分類された。

「1 室完結型」は全てのプログラムを同一空間で行う型で、入浴以外はほぼ全員が同じ行動をとり、午睡を望まない人が退避できる空間は特に設けられていない。1 室完結型の問題として、場の転換に伴う職員の負担が増すとともに、逃げの空間がないため、利用者の待ちが生じることが指摘される。[1)]「午睡分離型」は機能訓練室・食堂とは別に午睡室を設ける型で、食事から午睡への転換が容易で、午睡のみでなく自由時間の静養が可能であると指摘されている。「食事室機能訓練室分離型」は食事と機能訓練を行う空間と、午睡と自由時間を過ごす空間を分けた型で、場の転換に伴う職員の負担が軽減し、利用者の逃げの場を確保できるため利用者の待ちも解消されること、準備行為を先行できるためプログラムの円滑な進行が可能となること及び、静養等の空間利用の自由度が増し利用者の円滑な居室移動が可能となるなどの面からも有効と考えられる。

萩市事業団の 7 施設は、「1 室完結型」は、3 例、「午睡分離型」は 3 例、「食事室機能訓練室分離型」は民家改修型の 1 例に分けることが出来る。事業団が独自で建てた施設では、1 室完結型が多い傾向がある。料亭改修型や民家改修型では、複数の居室があるため、空間機能分化が行われている。

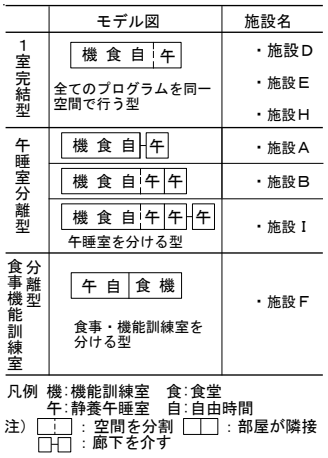

図 1　空間構成の分類

萩市事業団のデイサービス施設の 7 施設の平面図を図 2 に示す。各施設の空間構成をみていくと、施設 D は島に立地しており、1 階をデイサービス施設とし、玄関を入るとすぐ広い機能訓練があり、その一角に畳を敷き午睡コーナーが設けられ、ベッドが 3 台設置されている。元々特別浴室は設けられていなかったが、改修が行われ、以前施設 A で使われていた特別浴槽が施設 D に運びこまれ、特別浴室の利用が可能になった。施設 E は認知型対応施設であり、機能訓練・食事・午睡が同じ部屋で行われる。機能訓練室に設置した 6 台のベッドや一角に移動式の畳が敷かれ午睡時のみ布団がひかれ午睡が行われる。浴室は一般用の大浴場と機械浴室が設けられている。施設 H は事業団の中で最も新しい施設である。2 階から上の階には生活支援施設が設けられているため、デイサービス施設用とそれぞれ広い玄関が設けられている。機能訓練・食事・午睡が同じ部屋で行われ、機能訓練室に設置された 2 台のベッドや一角に畳が敷かれ午睡時に使用されている。デイサービス施設の機能分化の観点から、比較的、要介護度が軽度の利用者や介護予防の利用者を対象として作られた施設のため、特別浴室は設けられていない。職員の介護補助を円滑に行うため、他の施設に比べてトイレの個室が広くとってある。この 3 施設が「1 室完結型」に分類される。

施設 B は、大規模施設であり、機能訓練室に連続して段差のある午睡室が設けられている。機能訓練室にもベッドが 5 台設置されている。すべての機能が機能訓練室に連続しており、廊下がない点が特徴である。また、浴室は一般浴室と特別浴室が設けられており、特別浴室では搬送車で座ったまま入浴することができるため、介護

The space configuration and the use patterns of Day Care Facilities by “Hagi Syakaifukusi Jigyoudan”
The Supply Process of Day Care Facilities for Elderly-people by Social Welfare Corporation “Hagi Syakaifukusi Jigyoudan” in Hagi City (Part 4)

ISHIBASHI Nagisa, MISHIMA Sachiko, OHASHI Saori, KOH Shoken, NAKAZONO Mahito, YAMAMOTO Sachiko

注1) 一般浴室:B1 特別浴室:B2 トイレ:W 車イス用トイレ:W2 静養室:R 機能訓練室兼食堂:T 事務室:O 調理場:K 洗濯室:L 控え室・相談室:A
注2) 午睡コーナーは機能訓練室とみなす

図 2　各施設の平面図

度の高い利用者にも対応することができる。施設 I は、回廊型で、2 階にデイサービス施設がある。機能訓練室とは別に午睡専用のベッド 7 台が設置された静養室と和室の静養室 2 室が設けられており、機能訓練室と合わせて 3 箇所に分かれて午睡が可能である。マシントレーニングやレクリエーションの空間が食事空間と別に設けられており、家具で機能分離が行われているのが特徴である。また浴室は一般浴室と特別浴室が設けられている。施設 A は料亭改修型の施設であり、機能訓練室の横に増設された部屋があり、当時は訪問介護ステーションとして使われていたが、現在はマシントレーニング室として使われている。他の施設と異なり、機能訓練室にベッドがなく午睡や自由時間に休むための専用の静養室が機能訓練室の隣に設けられている。料亭改修のため、トイレが狭く特に車イス利用者への介助が行いにくい。この 3 施設が機能訓練室と別に静養室が設けられているため、「午睡室分離型」に分類される。

最後に施設 F は唯一民家改修型で、小規模型のデイサービス施設である。もとあった民家の隣に増設が行われており、母屋は昔ながらの木造民家を改修せずそのまま活用し、増設された離れは広いキッチンと車椅子用トイレ、フローリングの食事空間になっている。母屋の和室にはソファーが置かれ、午前中の自由時間は和室で過ごし、昼食・機能訓練は離れの機能訓練室で行われる。午睡は母屋の和室に設置されたベッド 3 台やソファー、離れの機能訓練室に連続した静養室に設置されたベッド 1 台の 2 箇所で行われ、ほとんどの利用者が午睡を取る。午前と午後で使用する空間を分けているため、「食事機能訓練分離型」に分類される。

3. 施設空間の利用特性

3.1 施設における生活展開

空間構成により分類された 3 タイプの中から、典型事例として「1 室型完結型」から施設 H、「午睡分離型」から施設 I、「食事機能訓練室分離型」から施設 F を抽出し、施設空間の利用特性について分析を行う。3 施設の 1 日の生活プログラムを図 3 に示す。基本的な生活プログラムは、送迎（迎え）、バイタルチェック、朝の会、自由時間、

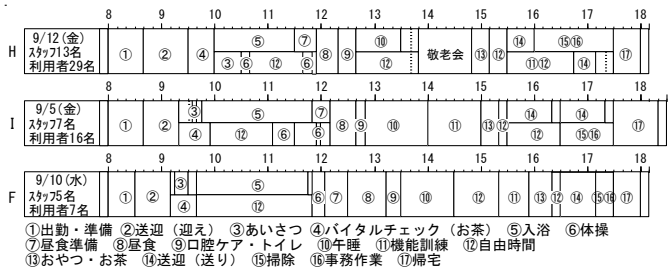

図 3 一日の生活プログラム

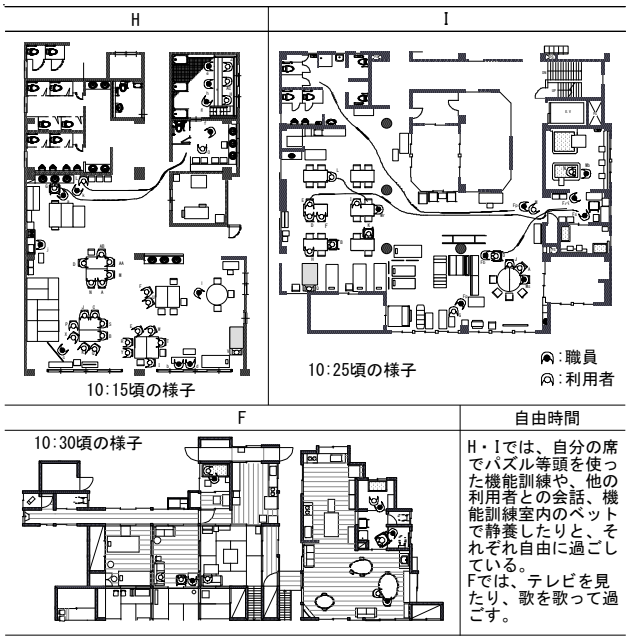

図 4 午前の自由時間と入浴サービス

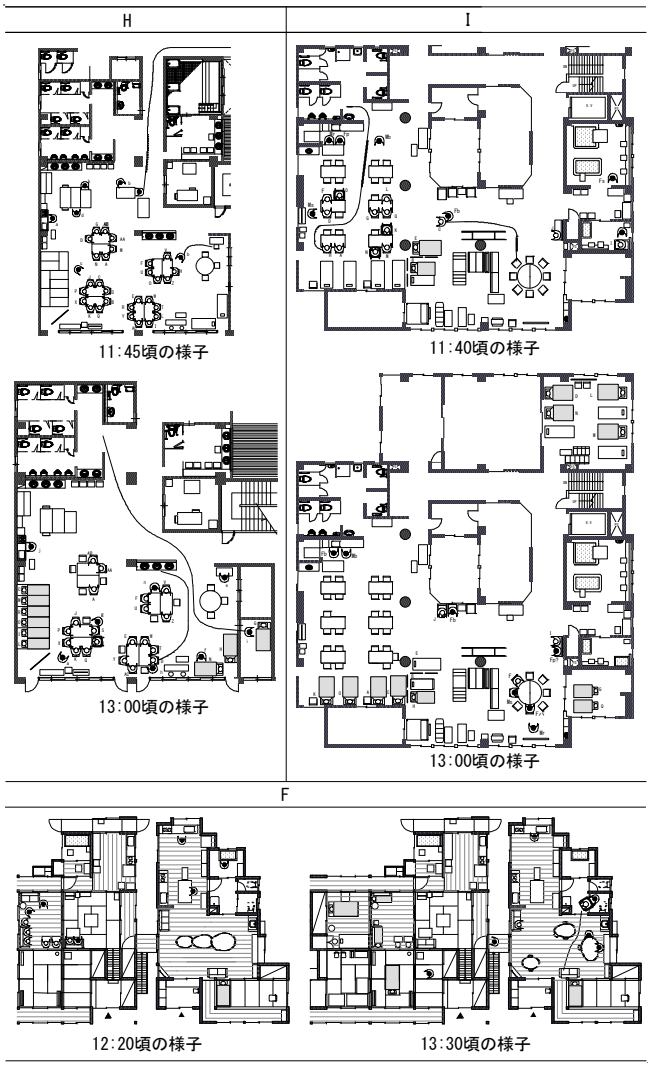

図 5 昼食準備・午睡

入浴、昼食、午睡・自由時間、機能訓練、おやつ、送迎(送り)から構成され、それぞれ開始時間等は異なるものの、1 日の流れは各施設でほぼ同じである。時間の開始時刻は各施設とも 8:40 頃である。入浴に関して施設 I, F では時間を要すため、バイタルチェックと朝の会を並行して行い、入浴開始時間を早めている。また、施設 I は 11:00 から、施設 F は 11:50 から体操が行われる。

昼食準備は施設 H では 11:30 頃、施設 I では 11:50 頃と開始時間は異なるが、昼食時間や口腔ケアの時間に大きな差は確認ない。施設 F は、12:00 過ぎからと他 2 施設比較すると遅い時間から準備が始まる。午睡は全施設で行われ、時間は 60 分程度である。機能訓練は、施設 H では 13:50 頃、施設 I では 14:00 頃、施設 F は 15:20 頃から始まる。その後、送迎が行われるが、施設 H・施設 I については 15:30 頃と 16:30 頃の 2 回分けて送迎が行われ、施設 F では、16:30 の 1 回のみである。施設 H では利用者は 1 日の大半を機能訓練室で過ごし、入浴・用便以外の移動は少ない。施設 I では自由時間は、機能訓練室の席から離れマシントレーニング近くに置かれた円卓に移動でき、居場所を選択できる。午睡時は、静養室を使用する。施設 F は、午前中と午後で主に過ごす部屋が分かれており、利用者は居場所を選択できる。

3.2 午前の自由時間と入浴サービス

自由時間・入浴時間の活動場面の事例を図 4 に示す。施設 H では自由時間中、職員は 3,4 名が利用者の見守りを行い、利用者が自由に過ごせるようにしている。入浴では職員 2,3 名が担当し、ほとんどの利用者が大浴場を使い、お湯の温度を好みに調整したい利用者、病気の利用者のみ個浴を利用する。大浴場は広いため、3 人の利用者が一度に利用できる。脱衣室も広いため、浴室を利用する利用者の回転が速い。施設 I では、職員は入浴・個別運動・見守り等担当が細かく分担されている。自由時間では空間が広いため、席を離れ、職員とマシントレーニングする利用者や、円卓で職員と会話したり、歌を歌ったりして過ごす利用者も確認でき、居場所の選択ができている。入浴ではほとんどの利用者が一般浴室を利用し、要介護度の高い利用者は特別浴室を利用する。一般浴室は大浴場がなく個浴が 2 つしかないため、入浴する

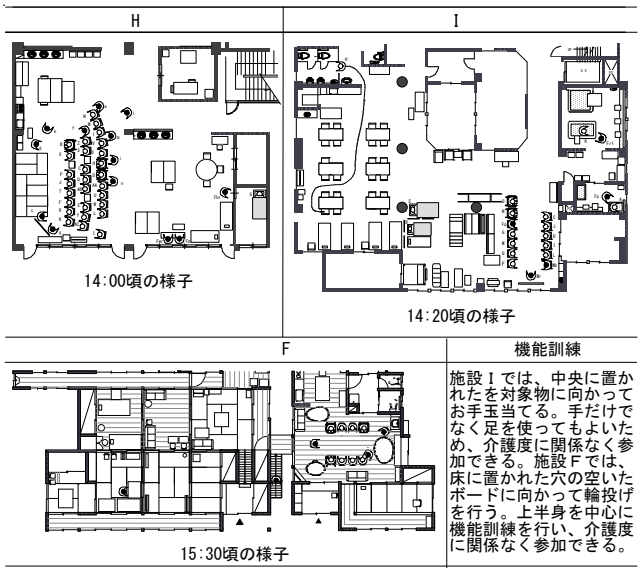

図 6　機能訓練

利用者は少ないが、入浴に要する時間は長い。施設 F では職員の役割分担はなく、状況に対応し臨機応変に利用者に対応している。自由時間では、職員と将棋をする姿も観察されたが、他の施設と異なりパズル等使った機能訓練を行う行為は確認できなかった。入浴では浴室が 2 箇所あるため分かれて入浴し、職員は利用者 1 人につき 1 人が付き添って介助にあたる。1 人の入浴時間が長いため、入浴に介助要する時間は長い。

3.3　昼食準備と午睡

昼食準備と午睡時の活動場面の事例を図 5 に示す。3 施設とも昼食前の体操を行っており、利用者が体操をしている間に職員が昼食の準備を行う。施設 H では昼食は施設 B の厨房で調理され配食されたものである。職員は、キッチン横の机を使用し、汁物、ご飯の量については利用者の希望を聞き配線をする。午睡は希望者のみ機能訓練室に置かれたベッドと簡易式の畳に敷かれた布団で行う。施設 H では午睡する利用者は少ないが、午睡できる空間が少ないためなのか、自分の席でうたた寝する利用者も観察できた。午睡を行わない利用者は、テーブルごとにトランプなどのゲームを行う。施設Ｉでは、1 階で作られた昼食をワゴンに乗せリフトで 2 階に上げる。職員は、リフト近くの机を使用し、汁物、ご飯の量については利用者の希望を聞き配膳する。午睡については、静養室 2 室と機能訓練室の 3 箇所に分かれてほとんどの利用者が午睡を取る。施設 F では、施設内のキッチンで当日の利用者数や利用者の希望を聞いた上で食材を調達し調理を行う。利用者が畳の部屋で体操を行っている間に、机やいすを動かし食事のしつらえを整え配膳を行い配膳が終わると利用者を呼びに行く。その後午睡は、2 箇所に分かれて行い、ほとんどの利用者が午睡を行う。

3.4　午後の機能訓練

施設 H では午睡を取る利用者が少ないため、機能訓練室に移行する際、机や椅子の移動があり、利用者の席移動が必要となり時間を要する。利用者の身機能層に合わせ担当の職員が機能訓練を考える。施設Ｉでは余剰空間を利用しており、利用者が午睡の間に円卓を移動し機能訓練の空間を作るため、午睡から機能訓練への移行がスムーズに行われる。機能訓練の内容では、体操や体を使った簡単なゲームを行う。施設 F では、機能訓練の前に自由時間が設定されており、機能訓練に使用する食堂兼機能訓練室は自由時間のために使用されている。そのため、自由時間後に機能訓練のため部屋のしつらえを変更する必要があるため、他施設よりも準備に時間を要している。機能訓練の内容については、体操後にゲームを取り入れた機能訓練が行われる。

4. まとめ

得られた知見は以下の通りである。

1）萩市事業団が運営する 7 施設の空間構成は「1 室完結型」「午睡室分離型」「食事機能訓練室分離型」の 3 タイプに分類できた。「1 室完結型」は全てのプログラムを同じ部屋で行うタイプで、比較的新しい施設に多く 3 施設該当した。「午睡分離型」は、機能訓練室とは別に午睡専用の部屋が設けられているタイプで 3 施設が該当した。食事機能訓練室分離型」は、小規模な民家改修型施設 1 施設のみが該当する特殊な事例であった。

2）1 日のプログラムに関して、3 施設では大きな差は確認できないが、生活展開は 3 施設で大きく異なる。1 室ですべてのプログラムを行う施設 H では、利用者の行動を見守りやすい。空間が分割された午睡分離型の施設 I では午睡から機能訓練、食事訓練室分離型の施設 F では、自由時間からの食事への移行、食事から午睡への移行が円滑に行われていることより場面転換時に複数の部屋を有することが円滑なプログラムの進行につながっていることが明らかとなった。また、空間が機能分離されているため、利用者は過ごす空間を選択することができる。

参考文献

1）中園眞人他 2 名：木造民家を再利用した高齢者デイサービス施設の空間構成と使われ方, 日本建築学会計画系論文集, 第 79 巻第 696 号, pp. 491－499, 2014. 02

* 山口大学工学部感性デザイン工学科　学部生
** 山口大学大学院理工学研究科　博士後期課程
*** 山口大学大学院理工学研究科　講師・博士（工学）
**** 山口大学大学院理工学研究科　教授・工博
***** 筑波大学システム情報系　助教・博士(工学)
* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.
** Doctoral Course, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ.
*** Lecturer, Graduate School of Science and Eng., Yamaguchi Univ., Dr. Eng.
**** Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.
***** Assistant Prof., Faculty of Eng., Info. and Systems, Univ. of Tsukuba　Dr.Eng.